

第6回武蔵野市子どもの権利に関する条例検討委員会  
骨子案たたき台に係る事前意見シート

1. 骨子案たたき台全般(下記2の設問に関連する事項を除く)に関して事前のご意見

委員①

E-7 子どもを支える人びとの支援

(3)学校教職員等、育ち学ぶ施設の支援

子どもを支えるという意味では学校の先生が家族の次に子ども達を支えている人びとであると言えます。毎日に等しいくらい子どもと関わっているのですから。

武蔵野市の子ども達を支えてくれている教員が疲弊せず、心身共に健康であることが子ども達とのより良い関わりを持つことにつながると思います。

そのために教職員へのサポートも重要になってくるのではないのでしょうか。

そういったことから、(3)学校教職員等、育ち学ぶ施設の支援 の箇所を分けてはどうでしょうか？

・(3)学校教職員等、育ち学ぶ施設の支援 → (3)学校教職員 だけの項目にする。

・文章の主語である、「学校等の育ち学ぶ施設の」→「学校の」に変える。

・市は、子どもの権利保障に欠かせない学校環境を確保していくために、学校教職員に(←分かりやすくするため付け加える)必要な心理的、福祉的支援に努めること。

すでに学校内で先生方への支援ができていていると思いますが、より強固な権利にするために分けた方がよいのではと考えました。

あと、育ち学ぶ施設は具体的にはどのような施設を指しているのでしょうか？具体的に書くことはできないのでしょうか？

委員②

- A-1一つ目の★「お互いに理解しあい」とありますが、多様性は理解ができなくても認め合うものだと思います。

- A-1考えの2つめの★で「家族のあり方」とありますが、あり方には「本来あるべき形」という意味もあるので誤解されそうです。

- A-1考えの2つめの★で「子どもらしい」という言葉が使われていてこれも「本来あるべき形」に型はめする表現になってしまっています。また人それぞれ子ども観があって共通の認識にならないです。

- 現在、子どもの戦争に巻き込まれない権利が直接的に侵されている地域があります。条例を機に、権利を保障するかの議論があるといいと思います。

- A-1またはA-3で子どもが一人の人間ということだけではなく、これは自治体の条例ということから、ともにまちづくりをする地域の一員または社会の一員という位置づけはいかがでしょうか。

- A-2一つ目の★で「望ましい」程度でいいのでしょうか。

- A-2「武蔵野市から～ために」ということは広めていくことが目的のように読めます。目的は武蔵野市のすべての子どもの権利を保障することだと思います。

- A-1で保護者の余裕の重要性が書かれています。教職員の余裕も重要です。

- B-1「この条例は、子どもの権利」を「この条例は、すべての子どもの権利」と「すべての」を加えられないのでしょうか。

- D-1(7)2つめの★の書き方は障害が医学モデルで書かれているように読めます。「社会的自立を促進」の部分が社会の障壁を取り除く意味に読めるといいのですが。

- D-1(7)「子どもは～ません」の「は」が限定されて読めちゃいました。

- D-1(7)「性」は「性別」、「性的志向」は「性的指向」、「LGBTQ」は「LGBTQ+」ではないのでしょうか。

- D-1(5)かE-1(2)(3)のどこかで子どもの遊び場・居場所は関係づくり・相談機能との連携を書き込めないか。

- D-1(5)かE-1(2)(3)子どもの実態にそくした運営がなされるべき。利用時間やできることなど。子どもだからダメとかしないです。やりたいことの支援もできたらいいと思います。

- E-1(2)居場所がたくさんあることはいいことですが、せめて三駅圏に一つは児童館のような児童福祉施設があるといいです。各小学校にあそべえがありますが、学校内にいること、児童福祉施設ではないことがあり役割が違います。

- E-1(4)岐阜市立草潤中学校では校内のどこでも授業を受けて良いことになっているそうです。保健室だけでなく、図書室など他の部屋でも登校できるようになるといいと思います。

- E-2(1)一つ目の★、協働相手の市民・団体への支援の要望がありました。

#### 委員③

A-2: 日本国憲法と子どもの権利条約は、前提となるものなので、初めに記載したほうが良いのではないかな。

A-3: ユニセフの精神や考え方はよいと思うが、ユニセフを具体的に出すかどうか。

A-4: 前文には、検討プロセスの記載はなくてもよいのではないかな。

C-3: まず、保護者の第一義的責任や義務があることを記載したほうがよいのではないかな。

D: 子どもの権利を記載するにあたり、子どもにも権利の主体としての役割や、権利を行使する際に他者の権利を侵さない、公共の福祉に反しないなどの決まりがあることを記載したほうがよいのではないかな。

E-3: 子ども会議設置、運営協議する場については、かなり具体的であり、それぞれの施設の現状や、長期計画、子どもプランとの整合を図る必要がある。

#### 委員④

A-1 「子どもには、自分らしく生きる権利があること」に「よりよく生きる」ことを加えていただきたい。また、考え方に子どもがよりよく生きることとして、ウェルビーイングの趣旨について記載をいただきたい。

E-3(2) 子ども会議について

イベント的な取組は、学校への負担を課すだけであり、これまで学校が疲弊しているという議論と反するものである。ムサカツや学校ごとの児童会や生徒会の取組、武蔵野市民科の学習など、子どもが意見表明をしたり、施策への提言をしたりなど、武蔵野市では既に様々な取組を行っている。新たな取組ではなく、今ある取組を子どもの権利に関する条例に価値付ける形で考え方に盛り込みたい。

(3) 学校運営協議会と子どもの運営参加について

学校運営に関しては、現在教育委員会の担当する検討委員会において、未来を担う子どもたちのためにという理念を前提に、子どもの学びや育ちを支える基盤となる学校運営を学校・家庭・地域の協働を強化していくことについて別途教育委員会において検討しており、現時点では学校運営協議会制度は本市においては導入されていない。今後の体制として、運営に子どもの意見を反映することは考えられるが、運営自体の参加は想定されていない。「子どもの声」を聞く仕組みを検討するという表現にしていきたい。

2.「武蔵野市子どもの権利に関する条例 骨子案たたき台の検討に際してのお願い」に記載の【とくにご意見をいただきたい内容(下記(1)～(6)参照)】に関する視点での骨子案に関する事前のご意見

- (1) 武蔵野市子どもの権利の日の設置について(D-2)
- (2) 放課後のほか、子どもの居場所の有効活用に欠かせない自由な時間確保のために、休む権利の制度的保障に一方踏み出すかどうか。(子ども特別休暇制度—E-1)
- (3) 学校内の居場所づくり、子ども相談に欠かせない福祉的支援、心理的支援の専門性の確立について(とくに学校に欠かせない情報共有と子どもの個人情報保護の調整等—E-2)
- (4) 子どもの意見表明・参加の制度的な保障について、ムサカツなどの実績をふまえて、そのあり方を検討すること(武蔵野市子ども会議・施設運営参加—E-3)
- (5) 学校外の多様な学び、居場所作りについては、不登校差別にならないように義務教育の無償性をふまえて、公平な仕組みを検討していくこと(E-4)
- (6) 子どもの権利条例の実効性の確保(子どもに独自の施策評価・検証方法—G-3)

#### 委員①

- (1) 武蔵野市子ども権利の日を祝日とすることで、市内での周知徹底に繋がると思います。また、祝日設定に併せて、幼稚園・保育園・学校の教員に向けた研修、保護者やその他市民向けに公開講座等を毎年行うことで、継続的に周知されることを望みます。
- (3) 学校内の居場所として、子どもたちがふらっと寄りやすい保健室のスペース拡大と職員の増員が必要であると感じます。
- (5) 子どもが学校以外に自分にふさわしい学ぶ場所が見つかった際に、金銭面で学校において義務教育を受けている子どもと同様の条件で安心して通えるよう、市は支援体制を整える必要があると考えます。

#### 委員②

- (1) 権利の日が決まっていると新たな目標、集中した取り組み、振り返り等ができ良いと思います。特定の日が無理なら、週間でも月間でもいいかと思います。
- (2) 欠席扱いにならないなら、その時間を使って親、保護者とゆっくり話し合ったり、自分で考える時間が持てて良いと思います。親、保護者も学校に行かせなければという呪縛から少しは解放されると思います。
- (3) 放課後に学校図書室の開放をすると、子どもがゆっくりする時間がとれ、自宅でWi-Fi環境のない子どもの学習の場にもなると思います。
- (5) 子どもが学校以外の場所で学んでいるという連絡がとれていれば、市からの金銭的な支援を受けられることに賛成です。

#### 委員③

- (1) 武蔵野市子ども権利の日の設置について  
具体的な日(11月20日)の提案に賛成です。さらに、その日を休みにするのはどうでしょうか？なぜ休みなのか？という疑問から前日(19日)に必ず学校などで権利を学ぶ時間を取り、権利への理解を深める。休日というインパクトのある日にすることにより権利を理解しようとする方向へ持っていけると思います。しかも、武蔵野市には平和の日というのがあり、同じ月の24日になります。平和の持続のためにも子ども権利の日を作るのは悪くないと思います。権利と平和、両方をつなげて学ぶのも良いと思います。  
子どもの権利月間や週間でも悪くないと思いますが、個人的にパンチが弱く感じられるので休日という意見を出しました。  
休みとなると共働きのご家庭からの意見もあると思いますが、私たちはまずは子ども優先で考えなければいけない委員会です。  
夏休みも短くなったので…いかがでしょうか？

#### 委員④

(2)子どもが学校での心の疲れとるために休む必要性がある状況が改善されないうちは休暇制度を設けるしかないのではないのでしょうか。少人数学級制が導入されたり、学級が息苦しく「疲れた疲れた」と子どもが言わなくなったり、理不尽な指導がなくなったり、子どもが自然と休暇を取らない状態になれば必要性もなくなるでしょう。学校が変わるか、通う側が休暇で工夫するか、どちらかをしないと子どもたちが潰れてしまう。

(4)傍聴アンケートに「宿題をやめて(時間的に)他のことに取り組めるのがいい」とあって、面白いと思いました。子ども議会からこんな提案が生まれてくるといいなと思います。つまり、施策や計画も提言があればいいと思いますが、こういう自分たち関わる全てについてを範疇とするのがいいと思います。(ここから脱線します。ただ宿題については宿題が問題なのではなくて、子どもたちの環境はさまざまなのに対して画一的に宿題を課していることが問題なので、例えば宿題はあるけどやってもやらなくてもいいとすることでクリアできます。宿題のチェックが無くなれば教員の負担も減ります。板書ノートのチェックも教員を忙しくしてるだけなので止めるとか。黒板写し止めたら考える時間増えないかな。なんなら教科書に書いてあることは黒板に書かないとか。)

(4)条例と計画でザックリとしたものはできると思う。しかし、日常的に起こって見過ごされている権利侵害がたくさんあって、これをどうするか。定期的に子どもたちから社会に対して提言のようなものがあつたらいいと思う。または子どもに限らず、子どもの権利目線から行政・学校・社会に提言できるといい。

(5)障害の社会モデルと同様に学校に障壁があるために登校しない・できない子どもに対してどうするか。学校が変わる(障壁を無くす)か学校外での学びを保障するかどちらかしかない。

(6)子どもの権利は行政計画や施策で保障されることは限られています。それ以外の評価を形にするのは難しいので、G-3で考えられてることに加えて子ども会議等で定期的に提言書を作るのがいいと思います。

#### 委員⑤

(1)武蔵野市子どもの権利の日の設置について

市として特定の日の設定するためには、根拠や背景、市としての思いが明確になっていることが必要であり、現状では難しいのではないかな。

※例:武蔵野市平和の日

(2)子ども特別休暇制度について

休む権利を否定するものではないが、社会人のような休暇制度との違いを明確にしないといけな。現行の教育制度との整合性も確認する必要がある。

(6)子どもの権利条例の実効性の確保について

条例に基づく計画として、第六次子どもプランに具体的な施策を掲げ、その施策がどのような子どもの権利に結びついているか明確にしたうえで、その施策の評価検証を行うことで、条例の実効性を担保する仕組みを作る。

#### 委員⑥

(2)子どもが休息する(学校を休む)権利があることは、子どもの権利として大切であると考えている。しかし、子どもの休暇制度について、学校教育における「出席」の考え方と相容れないため、実施は困難である。「保護者は教育を受けさせる義務があるが、子どもが学校を休む権利があることを理解し、子ども自身が自分を取り戻す機会を保障する。」という形で記すことを提案する。

(5)多様な学びの保障の中で、フリースクールなどの特定の場所に通う子どもに対して経済的支援を行った場合の公平性の担保の課題がある。また、この点は多様な学びを保障するうえでの手段の一つであり、施策に関することとなるため、「経済的支援」という文言を条例に記載することは適切ではないと考える。給食支援についても同様である。武蔵野市では「むさしのクレスコーレ」のような多様な学びの場を提供するための他市に無いような取り組みを行っており、このような形で不登校の児童生徒の支援を行い、さらなる拡充をしていくことが公の役割であると考えている。